11月15日（日曜日）「イエスの受難週（5）」

【新改訳 2017】

ルカ　22•39-46

「それからイエスは出て‥‥‥いつもの場所に着いたとき‥‥‥こう祈られた。『父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。』」（39-42 節）

これは、主イエスのゲッセマネの園での祈りです。弟子たちにも「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われ、ご自身は少し離れたところで、このように祈られたのでした。その祈りは、「苦しみもだえて、いよいよ切に祈られ」、汗が血のしずくのように地に落ちたほどでした。

この切なる祈り、聖なる祈りを十分に解説する資格は筆者にはありません。

神の聖なる御子であり、人の子ともなられた救い主の真実さ、苦悩、全き信頼と服従を見る思いです。「わたしの願いではなく、（あなたの）みこころのとおりに」という祈りは、最高の祈りでしょう。

　このようにして父のみこころに従い、十字架につき、私たちを救ってくださった主に、本当に感謝しているのでしょうか。

～祈り～

主イエスさま。あなたはゲッセマネの祈りにおいて、人性による願いを持ちつつも、父のみこころのままにゆだねられました。少しでもあなたにならう者にしてください。

【学びのために】

主イエスのこの祈りこそ、私たちが学び、身につけて実行すべき、本当の祈り、また最高の祈りではないでしょうか。私たちの祈りの多くは、「わたしの願いどおりに答えてください」で終わっているのではないかと案じられます。